

《松阪市内の中学生が松阪競輪場を施設見学》

～総合探究学習の一環として、競輪選手のトレーニングや競輪場運営の仕事に触れる～

松阪市より松阪競輪場の包括運営業務を受託している株式会社JPF（本社：東京都千代田区、代表取締役：渡辺俊太郎）は、2026年7月10日（金）、松阪市内の中学2年生27名を迎え、松阪競輪場の施設見学会を実施しました。



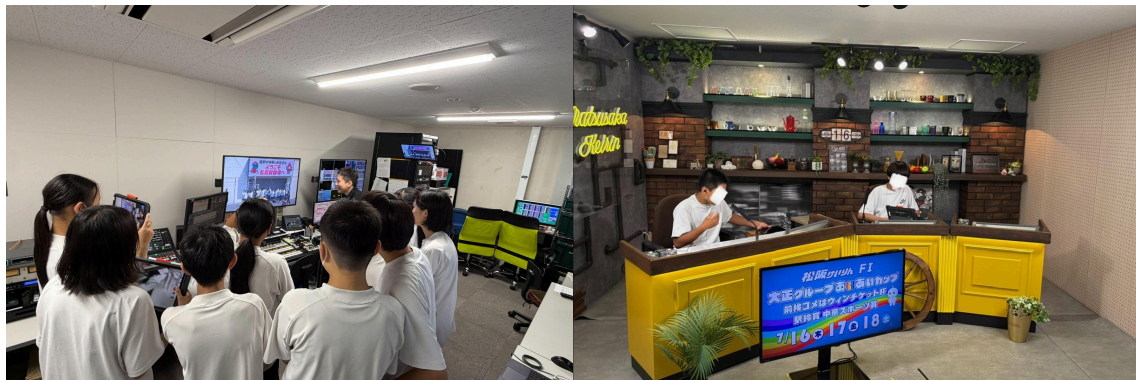
今回の施設見学は、総合探究学習「嬉野学」における校外学習の一環として行われました。「嬉野学」では、松阪市が目指す未来像、地域創生、災害時の医療や安全確保など、地域に関するさまざまなテーマを設定し、生徒たちが地元について学びながら、自分たちの考えを深めていきます。テーマに応じて地域の現場を訪問する校外学習にも取り組んでおり、今回はその一環として松阪競輪場を訪れていただきました。

当日は、日本競輪選手会三重支部にご協力いただき、西浦仙哉選手（73期）と神田龍選手（105期）が参加しました。はじめに、松阪競輪場のバンク内を歩く「バンクウォーク」を行い、生徒たちは普段は競輪選手がレースで走行するバンクの傾斜を実際に体感しました。また、西浦選手による走行を間近で見学し、競輪という競技の特徴や迫力に触れました。

その後、生徒たちは「選手班」「運営班」の2グループに分かれて施設を見学しました。
選手班では、松阪サイクリートレーニングセンターで、競輪選手によるトレーニングの紹介や実演、トレーニング体験を行いました。生徒たちは、競輪選手が日々使用しているトレーニング機器を見学しながら、競技に必要な筋力や体幹、瞬発力を高めるための練習について説明を受けました。また、実際にトレーニングにも挑戦し、競輪選手の身体づくりや日々の努力を身近に感じる機会となりました。



運営班では、テレビ室での業務内容の説明やスタジオ見学を通じて、競輪開催を支える運営スタッフの仕事について学びました。生徒たちは、レース映像の切り替えや放送機材の操作、スタジオでの撮影・音声収録など、普段見ることのできない競輪場の裏側を見学しました。また、実際にマイクやヘッドホンなどの機材にも触れながら、競輪を来場者や視聴者に届けるために、多くのスタッフが関わっていることをお伝えしました。



質疑応答では、生徒から「競輪選手として活動する中でつらかったことは何か」「なぜ競輪場の運営側の仕事に就いたのか」などの質問がありました。
「なぜ競輪場の運営側の仕事に就いたのか」という質問に対し、当社の隈本は、「大学では駅伝に取り組んでおり、スポーツが持つ熱量や、地域の方々に応援していただく喜びを肌で感じていました。社会人になってからもスポーツに携わる仕事がしたいという思いがありました。JPFは競輪場の運営だけでなく、自転車教室や地域イベントなども行っています。競技を支えるだけでなく、地域に密着した事業に取り組んでいる点に魅力を感じ、入社を決めました」と自身の経験を交えて話しました。

生徒たちにとって、松阪競輪場での体験を通じて得た学びが、競輪選手をはじめ、競輪場を支えるさまざまな仕事やスポーツへの関心を広げるきっかけとなり、地元にある施設や仕事をより身近に感じるとともに、自らの将来を考える第一歩となればと考えています。

株式会社JPFでは、競輪場を地域に開かれた場所として活用する取り組みを進めております。今後も、自転車競技やスポーツの振興に加え、地域の子どもたちがスポーツや仕事に触れ、自らの将来について考えるきっかけとなる学びの機会を創出してまいります。

【協力】

- ・松阪けいりん
- ・日本競輪選手会三重支部

【株式会社JPFについて】

1950年、競輪やボートレースなどの公営競技におけるゴール着順判定用スリットカメラを発明。以来、多くの公営競技場において判定業務を支えてきました。2010年からは公営競技場のトータルマネジメント事業を開始し、全国各地で運営支援を展開しています。「人の成長機会を提供できる企業であり続けること」を理念に、地域活性化やサイクルスポーツ振興など、多様な取り組みを推進しています。

【メディアキット】

キット内の素材は本プレスリリースを掲載していただく場合のみ使用可能です。

<https://drive.google.com/drive/folders/1qqkUtcMH5Tt49iccNFuvTJJO4W5l4rhC?usp=sharing>



【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社JPF

松阪事業所 イベント担当

TEL:0598-23-0078